

伏見地区自治計画

目 次

《 はじめに 》	P 2
【1】計画策定の趣旨	P 4
【2】伏見小学校区の概要	P 4
(1) 概要	
(2) 地域資源	
① 自然資源	
② 歴史資源	
③ 人材資源	
【3】現状と課題	P 6
(1) 人口・世帯に関するデータ	
(2) 活動・行事	
(3) 「伏見 100 人会議」のまとめ	
【4】まちづくりの目標	P 10
(1) 長期計画（10年計画）	
(2) 中期計画（3～5年計画）	
【5】活動計画	P 11
(1) 短期計画（1～2年計画）	
(2) 組織計画	
(3) 活動計画	
《 おわりに 》	P 13

伏見地区自治協議会

2026 年 3 月制定



《 はじめに 》

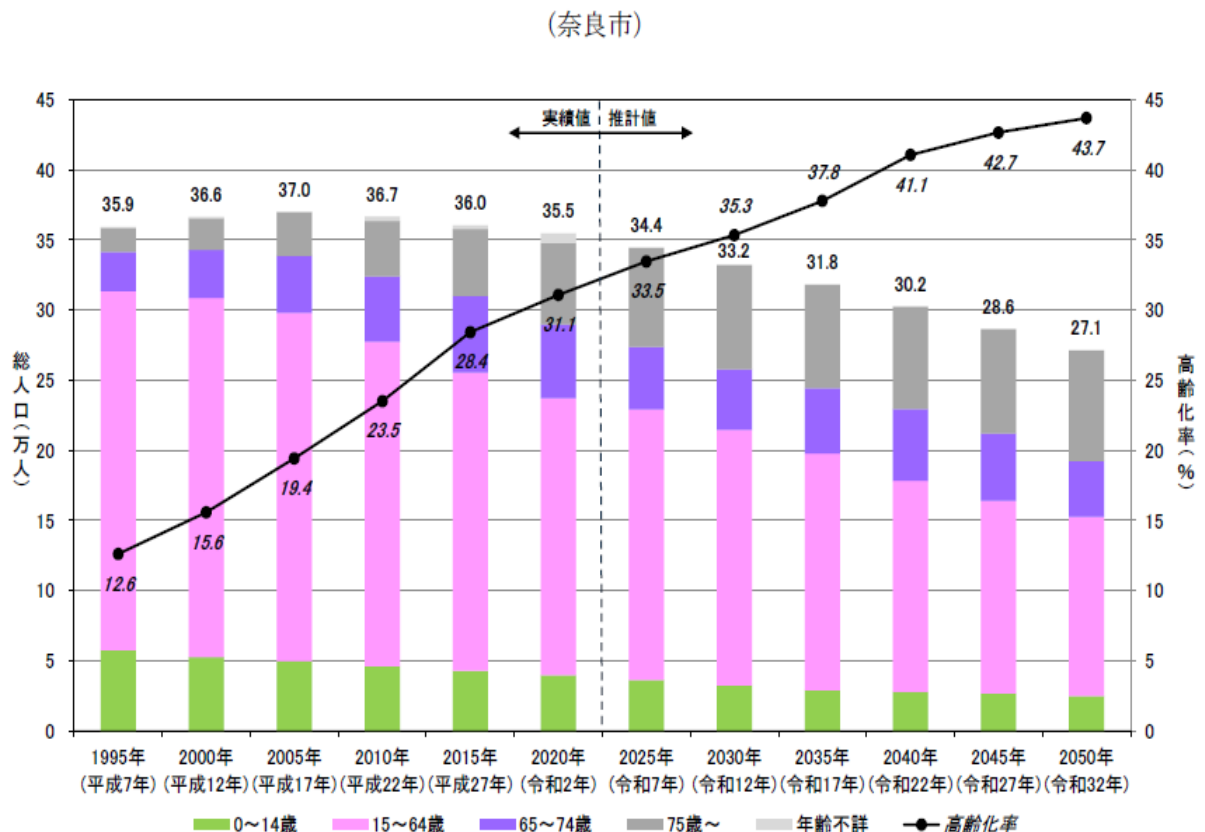
21世紀になって四半世紀になる。ネットの発達により、誰もが世界の情報を瞬時に映像で見ることができるようになった。ITの発達によりその情報を誰もが加工できるようになっている。世の中は更に加速して変動していく。その情報のカオスの中で、真実と虚構も区別できなくなってきたくないか。我々の存在も見えなくなっていないか。ヒトが生きるには、今こそ本当のもの、確かなものが必要かもしれない。

伏見地区を見ると四半世紀の間に多くのものが変わった。南部の阪奈道路が高架化され、大和西大寺駅南部の再開発により駅南部の田畑が失われ、ビル化・マンション化が急速に進んできている。更に、どのようなことが変わったか。

多くのことが変わった中で一つ挙げるとしたら、ヒトの繋がり方が大きく変わったのではないか。「井戸端会議」がなくなり、「近所付き合い」もなくなってきた。助け合いの組織である自治会の加入率も大きく下がり、PTAの加入率も下がってきた。婦人会、子ども会、老人会などの地域の集まりや行事が随分減ってきている。

一方で、少子高齢化の影響が国を左右する問題になってきた。国や地方公共団体の対策がなおざりになっている間に、人口減少が止められない段階に入ってきた。これから5年後、10年後の人口を想定すれば、現在の状況の深刻さが理解できる。

『奈良市の5年後、10年後の人口想定図』



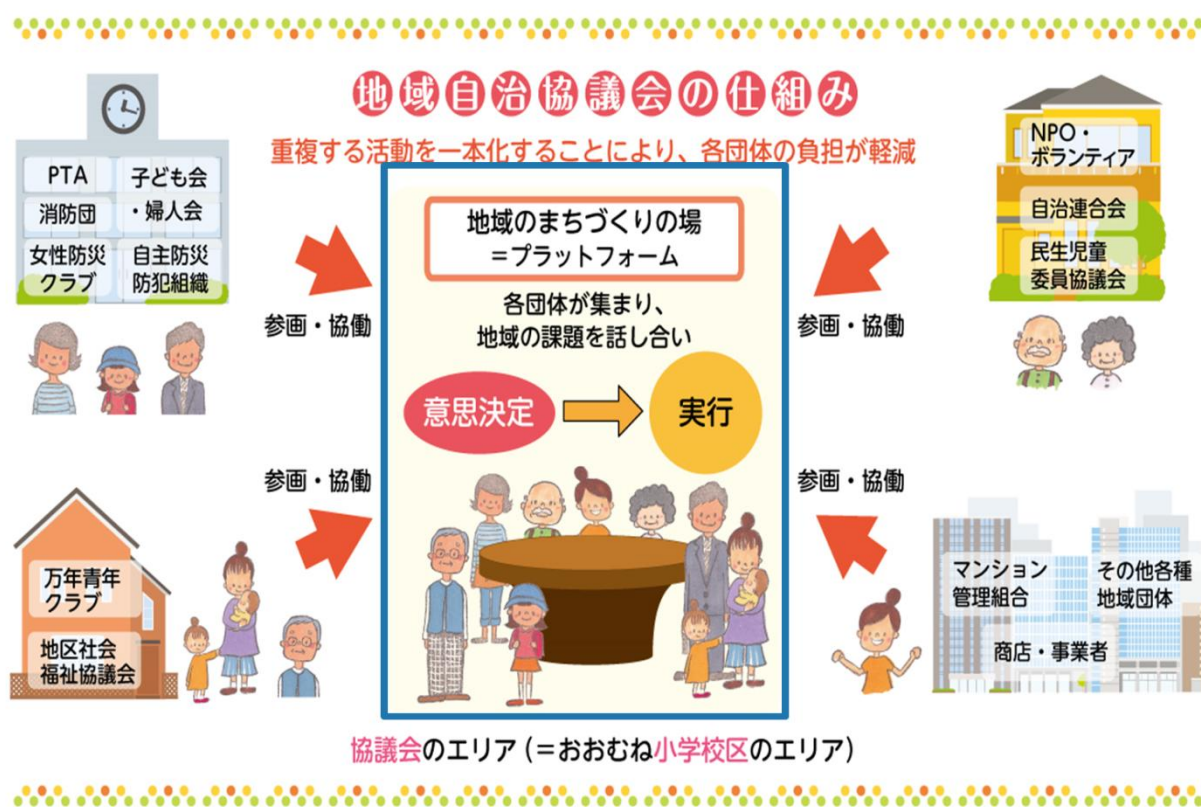
(資料) 2020年(平成27年)までは国勢調査。2025年(令和7年)以降は国立社会保障・人口問題研究所

「日本の将来推計人口(2023年(令和5年)推計)」及び

「日本の地域別将来推計人口(2023年(令和5年)推計)」

少子高齢化がこのような進行すると、次のことが起こることは間違いない。労働人口が減少し、奈良市の税収が減り、職員数を減らさざるを得ず、現在できている行政サービスができなくなる。それをカバーするために行政のIT化とロボット化を進めることになると思われるが、費用対効果を考えると実現は非常に難しい。

では、行政サービスの縮小に対して私たちはどうするのか。第一に、持続可能な地域づくりを意識し、住民一人一人が暮らしを合理化してむだを無くし、行政サービスに出さないようにする。第二に、暮らしの中で省けないことは、住民が自ら力を合わせて対処し、行政サービスへの依存度を少なくする。この2つしか方法はない。自分たちのことは自分たちです、そして、自分たちでできないことは行政と相談をして解決を図ることになる。つまり、私たちがすでに忘れていた、あるいは、失っていた地域の「自治」による暮らしの維持・再生を目指す取り組みが必要である。そこで私たちは、「地域自治協議会」づくりに希望を見出した。



「地域自治協議会」は、地域で活動する団体や個人が一堂に会し、地域の課題や問題について知恵を出し合い、みんなで協力・協働して解決に取り組む組織である。会費を集めて会員のために活動する団体ではなく、自主的・民主的に運営され、地域住民のためにボランティアとして活動する団体である。そして、奈良市長から唯一の地域自治協議会であると認定されると、地域住民の世帯数に応じて交付金を支給されるものである。私たちは伏見地区自治活動のプラットホームとして伏見地区自治協議会を設立し、子ども達や孫達が帰ってくる伏見地区にしたいと願い、今後十年間のまちづくりに尽力したい。

【1】計画策定の趣旨

これまでの地域自治は、隣近所の助け合い組織である自治会（会長）が集まる伏見地区自治連合会が中核となり、次の三団体が中心となって活動を進めてきた。

- ①伏見地区民生委員・児童委員協議会…民生委員・児童委員に認定された皆さんが、生活保護世帯や要援護者等への見守り・生活支援等を対面で実施。福祉政策課と連携。
- ②伏見地区社会福祉協議会…活動に賛同する有志の皆さんが集まり、住民の皆さんを対象に、様々な趣味や文化活動・支援活動等を通して、住民の豊かな暮らしづくりに貢献。福祉政策課と連携。
- ③伏見地区自主防犯・防災協議会…当初は、大災害時に避難所を開設するため、自治連合会に加盟する自治会から会長・防災担当副会長、「防災士」、関係団体代表等を会員とする団体。しかし、平時からの取組に、自然災害以外の災害に対する取組等に活動対象が拡大。危機管理課・福祉政策課と連携。

更に、社会教育分野の人権教育推進協議会、学校教育分野の伏見中学校区少年指導協会、警察分野の伏見地区交通安全補導委員会、伏見地区安全推進委員会、伏見小学校区子ども見守り隊等も地区住民がボランティアとして活動してきた。

しかし近年、各団体から「会長や組長になる人がいない。」「忙しすぎてなれない。」「脱退したい。」と、組織の存続の危機的な状況が頻繁に伝えられるようになった。そして、「単位自治会が自治連合会から脱退したい。」「PTAに加盟しない。」との具体的な住民の行動が顕著になってきていた。

一方で、少子高齢化の強い流れができており、このまま流れに飲まれると地域の自治は元に戻せなくなり、崩壊するのではないかと考え、この今、今こそ、地域の自治がまだ機能している間に「自分たちでできることは自分たちでできるようにしたい。」と考える。

そのため、「現在、伏見地区にどのような課題があり、どのように解決したいのか」「5年後、10年後には伏見地区をどのような地区にしたいのか」という『伏見地区自治計画』を以下のように作成する。

【2】伏見小学校区の概要

本会の活動区域は、原則として、伏見小学校区である。対象とする小学校区の現状を簡単に以下にまとめる。

（1）概要

奈良市伏見は、かつて「伏水」とも表記され、地下水が豊富で湧き水が多い地域であったことが地名の由来とされる。金剛山麓にも同様の地名が見られ、京都の伏見も酒造で知られる水の豊かな土地である。奈良市伏見地区においても、かつては多くの井戸があったと聴くが、現在も使われている井戸は聴かない。

伏見地区は奈良盆地の北端にあり、東に平城京、西に蛙股池、南には阪奈道路、北に近鉄奈良線に囲まれた狭い地域だが、西大寺が建立されてからも1260年以上の歴史があり、平城京の西に隣接する穏やかな地域であった。しかし、近鉄大和西大寺駅

南部の再開発により、急速に都市化が進んでいる。

(2) 地域資源

- ① 自然資源：伏見地区内を蛙股池と新池から秋篠川に水が流れ、一部にホタルが生息しており、水利組合が水管理をしている。用水路の周辺の大部分にはかつて水田があった。しかし近年、大部分が宅地開発されたが、農業用水路は全域に残っている。そのため、排水の流れが変わってきている。

一方、断続的な宅地開発により住宅地内の道路は狭く、折れ曲がっているところが多い。寺社仏閣の境内以外の従来の自然はほとんど失われ、管理された公園では思いっきり自然との遊びはできない。

- ② 歴史資源：東大寺と対をなす寺院として西大寺が建立され、その周辺地域は古くから西大寺と共に発展し、多くの歴史を育んできた。平城京を中心に律令国家としての仕組みが完成し、天平文化が開いた時代だ。従って、伏見地区周辺には、多くの歴史的な寺社仏閣や古墳が存在する。代表的なものとして以下が挙げられる。

真言律宗総本山：西大寺

西大寺八幡神社

日本最古の天満宮：菅原天満宮

法相宗別格本山清涼山：喜光寺

十五所神社など

1889年…町村制施行により、西大寺村、青野村、宝来村、疋田村、平松村、菅原村が合併し、伏見村が成立。

1896年…所属郡が生駒郡に変更。

1914年…近畿日本鉄道（近鉄）奈良線が開通し、あやめ池遊園地が開業。これにより丘陵地の開発・発展が始まった。

1928年…奈良電気鉄道（現・近鉄京都線）が開業し、京阪電車・伏見桃山駅の東側に桃山御陵前駅が設置された。

1950年…町制施行により伏見町となる。

1955年…富雄町、帯解町などとともに奈良市に編入され、伏見町は消滅。奈良市伏見地区は奈良市の一部となる。

その後…あやめ池の西方で学園都市が発達し、学園前駅も設置。それに伴い、周辺の丘陵地はベッドタウンとして急速に開発され、人口が激増。奈良市内有数のベッドタウンとなる。平地部には住宅の他、ロードサイド店舗が多く立地し、典型的な郊外型の市街地を形成している。

- ③ 人材資源：近年、伏見地区では自治連合会主催で、代表者会議が毎月開催されてきた。伏見地区で活動する各団体の代表、公立の幼小中学校やPTAの代表が一堂に介し、それぞれの活動報告や共通課題の検討等を行ってきた。まさに自治協議会の前身の役割を担っていたと考える。従って、継続性も考え、代表者会議を自治協議会の決定機関と位置づけ、引き続き機能を持たせることにする。

私達は『伏見地区自治計画』を検討する上で、地域の特徴、良い部分と悪い部分を十分に把握・検討し、これからのまちづくりを考える際に、継続したいこと、活用したいこと、変えたいことを自治計画に反映したいと考える。私たちの活動場所である伏見地区の地域性＝バックグラウンドを共通理解した上で、良い部分を活かし、悪い部分を改善する方向性を持ちたい。

【3】現状と課題

さて、以下に『伏見地区自治計画』を作成する条件を整える。現在、地区で活動する団体や地区に居住する住民が課題（何とかしたい）と感じていることを整理し、そのために、誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どのようにするのかをまとめたい。

（1）人口・世帯に関するデータ

『伏見地区自治計画』を検討する上で、最近の奈良市伏見地区町丁別人口数・世帯数のData から高齢化率を計算した表である。伏見地区は奈良市から世界へと繋がっており、様々な影響を受けて5年後、10年後にどの様になっていくか予測は非常に難しいが、少しでも本会が住民の安全・健康・安寧・幸せに寄与できることを目指したい。

伏見地区：町丁別高齢化率

町丁名	世帯数	2022.08.01			2021.07.01		2020.07.01	
		総数	年少人口率	老年人口率	年少人口率	老年人口率	年少人口率	老年人口率
西大寺小坊町	268	421	7.4%	25.7%	7.1%	25.7%	9.5%	25.7%
西大寺南町	668	1,232	13.5%	17.5%	14.1%	20.6%	14.3%	20.5%
西大寺新田町	248	516	15.7%	23.3%	16.0%	24.1%	16.2%	23.8%
西大寺野神町一丁目	207	410	12.4%	30.0%	12.8%	29.7%	12.0%	29.0%
西大寺野神町二丁目	144	264	7.2%	34.5%	5.5%	36.0%	5.6%	37.2%
西大寺芝町一丁目	320	606	10.7%	24.6%	10.7%	24.9%	10.4%	25.1%
西大寺芝町二丁目	279	542	12.5%	28.6%	11.6%	27.4%	11.8%	27.3%
西大寺町	53	78	1.3%	42.3%	7.1%	41.2%	10.0%	36.7%
西大寺高塚町	138	346	13.9%	22.5%	12.9%	20.9%	12.4%	20.7%
菅原東一丁目	274	567	14.1%	24.0%	14.5%	22.8%	13.8%	24.1%
菅原東二丁目	400	882	17.0%	19.4%	16.4%	19.4%	16.3%	19.6%
菅原町	800	1,885	15.5%	24.6%	15.9%	24.2%	15.5%	24.7%
若葉台一丁目	147	330	11.5%	32.4%	11.8%	33.8%	11.0%	34.9%
若葉台二丁目	166	385	14.0%	36.9%	13.8%	37.8%	13.6%	37.4%
若葉台三丁目	210	450	15.8%	31.6%	16.7%	31.8%	17.2%	30.8%
若葉台四丁目	117	285	10.5%	36.5%	9.4%	36.6%	9.6%	36.1%
青野町	34	98	15.3%	15.3%	16.2%	15.2%	15.8%	13.9%
青野町一丁目	290	615	17.9%	17.7%	16.5%	17.6%	16.9%	17.8%
青野町二丁目	136	267	17.2%	25.8%	16.6%	27.1%	17.8%	27.4%
疋田町	249	704	21.7%	14.9%	21.1%	14.1%	19.0%	15.3%
疋田町一丁目	117	226	13.7%	38.1%	10.2%	42.1%	9.8%	41.1%
疋田町二丁目	223	511	15.1%	25.4%	16.3%	25.3%	15.7%	25.7%
疋田町三丁目	230	534	13.9%	26.8%	14.9%	25.4%	13.8%	26.7%
疋田町四丁目	56	124	6.5%	49.2%	7.6%	48.1%	6.0%	47.4%
疋田町五丁目	260	601	13.8%	32.3%	13.6%	31.7%	14.8%	30.2%
西大寺国見町一丁目	1,066	2,005	12.2%	27.6%	12.4%	27.7%	12.8%	26.7%
西大寺国見町二丁目	365	761	13.1%	28.4%	13.3%	30.1%	12.5%	30.7%
西大寺国見町三丁目	194	464	17.9%	12.7%	16.6%	13.1%	17.4%	11.7%
【伏見地区】	7,659	16,109	14.1%	25.3%	14.1%	25.4%	14.0%	31.1%
【奈良市】	166,822	352,397	11.2%	31.7%	11.3%	31.5%	11.5%	31.1%

15%以上 30%以上 15%以上 30%以上 15%以上 30%以上

（2）活動・行事

新たな組織であり、新たな仕組みを持つ「地域自治協議会」について理解を深め、機能を十分に発揮する伏見地区自治協議会をつくるため、これまで次のような取組を行った。

1) 2024 年度に「伏見まちづくり研修会」を2回実施

- ・主催：自治連合会、社会福祉協議会、自主防犯・防災協議会、
人権教育推進協議会、民生委員児童委員協議会、代表者会議
- ・協力：奈良市地域づくり推進課／NPO政策研究所・田中逸郎氏

①第1回 ・日時場所：1月25日（火）13:30-15:30 [伏見公民館]

- ・目的：「地域自治協議会」の理解を拡げる
- ・内容：「自治協議会」は住民による住民のためのプラットフォーム。公共性、公開性、民主性、参加性が基本ルールの団体。全住民を構成員と”みなす”。

②第2回 ・日時場所：3月25日（火）13:30-15:30 [伏見公民館]

- ・目的：「伏見地区自治協議会」設立の機運醸成➡「(同) 準備会」立ち上げの合意形成
- ・内容：前回の振り返りからこれからの伏見地区の地域活動の在り方について考える。ワークショップ「地域活動の課題」解決に必要な取り組みは？」奈良市支援制度・先進事例から協議会設立に向けて取り組むことを学ぶ。

2) 2025 年度に「伏見地区自治協議会準備会設立総会」を実施

- ・日時場所：6月17日（火）13:30-15:30 [伏見地域ふれあい会館]
- ・目的：「伏見地区自治協議会」設立に向けて「(同) 準備会」の設立
- ・内容：①設立の趣旨説明 ②準備会規約（案）の説明・審議・承認
③役員（案）の説明・選出・承認 ④事業計画（案）の説明・承認
⑤予算（案）の説明・承認

自治協議会準備会 設立趣旨

～安全・安心・住みよい地域をみんなでつくるために～

1 伏見地域の現状と課題

伏見地区の良いところは、伏見まつりを通じてつながりを拡げる機会があることや、こどもに優しく、各団体が協力的で地域活動が活発に活動していることがあげられる。一方で、多くの団体が担い手不足や高齢化により活動の継続が困難になっている。

- ・自治会の加入率の低下：若者層の参加が少なく、つながりが希薄に
- ・PTA加入率の減少：地域ぐるみの子育て支援力が低下
- ・高齢者支援の限界：見守り手が足りない
- ・子どもの見守り人手不足：働き方の多様化で人材が不足
- ・地域サービス維持の困難：移動図書館やグリーンサポートの継続が危機に

今こそみんなの力で地域の未来を守る時です。

2 新たなつながりづくり「自治協議会」へ

地域課題を乗り越えるために、「自治協議会」の設立を目指します。

- ・誰でも参加OK！小さなことから無理なく参加
- ・長く続けられる仕組みをみんなで育てます

3 よくある不安とその解消策

- ・「人がいないのに、新しい組織なんて…？」

➡既存の代表者会議を活用し、今ある力を活かします

・「参加が大変そう…」

➡ 出入り自由の「寄り合い」で気軽に参加OK

・「一部の人だけが動くのでは…」

➡ 個人・団体の連携を深め、地域全体で課題に取り組みます

4 具体的な取り組み（予定）

- ・ 代表者会議：課題の共有・整理・方向性の検討
- ・ 出入り自由の寄り合い会議：個人や団体の意見をヒヤリング
- ・ 地域課題の明確化と行動計画：小さなアクションから始動！

5 これからのステップ

- ・ 準備会の立ち上げ：まずは意見交換からスタート
- ・ 多様な立場と連携：子育て世代・高齢者・現役世代・団体など

みなさんへのお願い

この活動は、地域に暮らすすべての人のためのものです。

「草刈りくらいなら」「ちょっと手伝うだけなら」— その気持ちが大きな力になります！

一緒に、安心して暮らせる伏見を作りましょう！

皆さんのご参加を心よりお待ちしております。

3) まちづくりアンケートを実施

- ・ 目的：今後の本格的な活動に向けた地域の現状や住民のニーズの把握
- ・ 期間：6月17日～6月30日
- ・ 方法：6/17「準備会」設立総会で用紙記入。自治連合会HPでWeb入力。
- ・ 質問：「地域について感じていることやご意見・ご提案があればお書きください。」
- ・ 回答：238名 とても満足＋満足＝79.8%
- ・ 課題：①地域の安全・防犯に対する不安 約53件
 例…街灯増設、防犯カメラ設置、夜間警備、防犯啓発
- ②地域の安全・防災・災害に対する不運 約51件
 例…避難場所整備、災害時協力体制の構築、避難訓練、地域防災イベント
- ③地域活動・交流・自治会活動の推進 約31件
 例…多世代交流会、地域行事、イベントの開催・拡大、自治会活動の活性化
- ④子ども・高齢者の見守り・支援活動の充実 約25件
 例…見守り活動、見守り体制強化、子育てと高齢者の交流促進
- ※その他、⑤交通安全・支援活動、⑥公園・道路・景観の整備と美化、
 ⑦防犯・啓発活動、⑧災害時協力・避難場所確保、⑨犬のマナー・しつけ
 向上、⑩ゴミ・清掃・マナー啓発などが出された。

4) ケア交流会で出された地域の困りごと

- ・ 日時：7月12日14：00～15：30
- ・ 場所：伏見公民館
- ・ 参加：地域の専門職（ケアマネージャー、ヘルパー、介護職等）、
 民生委員・児童委員、連合会・自主防等の役員
- ・ 内容：地域で活動する中で困っていることをグループに分かれて話し合う。
- ・ 課題：①ゴミ出しの困難性・課題 18件
 ※分別できない、曜日がわからない、持てない、歩けないなどの困難性

や、ゴミ案内表示の工夫やサポートの必要性が理解できた。

②他団体・支援者との関係・理解不足 10件

※行政・支援者の情報共有や関係性ができておらず、対象者と支援者が繋がっていないケースが多々あることが理解できた。

③買い物の困難性・支援不足 8件

④認知症や独居高齢者への対応 7件

⑤災害時対応への不安・準備不足 7件

(3)「伏見 100 人会議」のまとめ

「安全・安心・住みよい地域」づくりを目指し、様々な場所（ステージ）で話し合い、伏見地区の現状や課題を把握する「準備会」活動を進めてきたが、次の段階として、参加した地域住民の皆さんが日々暮らしの中で何に困っているのかを話し合い、どのように解決していけば良いかを考えるワークショップを行うことにした。より多くの住民に参加を促し、共に課題を考え、共に解決策を協議し、共に実行する自治意識の向上を目指した。

1)「第1回伏見 100 人会議」

・日時：9月28日（土）10：00～12：00

・場所：伏見公民館

・内容：「100 人会議」の趣旨説明の後、9班に分かれて、①自己紹介、②困りごとの共有、③グループ内での整理と共有、④全体での共有の予定であったが、初期の段階で事故があり、①②で終了。この中で地域課題に関する情報収集と整理はできたが、見出しづくり、優先順位付け、課題解決方法の検討、全体共有ができなかったため、再度「100 人会議」を実施して議論を深めることになった。なお、議論の中には参考になる意見も多くあった。

2)「第2回伏見 100 人会議」

・日時：11月29日（土）10：00～12：00

・場所：伏見公民館

・内容：今回は班別に自由議論をし、多くの課題が出された。議論を深めるために、多くの課題を分類し、課題が多くある6つのカテゴリを作り、関連性の強い団体代表がリーダーとなって議論をすることにした。

カテゴリ分け ①安全・安心 ②福祉・健康
③子育て・教育 ④環境・美化
⑤交流・にぎわい ⑥行政・組織運営

まず、カテゴリに該当する課題を確認し、その中で次年度に取り組めるものを選択し、優先順位を決め、見出しを作る。次に、問題解決の方法を検討し、全体で共有することにした。

3)「愛称」を公募➡「伏見丸」に決定

・準備会の取組を進める中で、「伏見地区自治協議会」という名称に対して、「堅苦しい」「難しそう」「近寄りがたい」といったマイナスの印象が多く寄せられた。そこで、若者や子ども達にも少しでも関心を持ってほしいと考え、「愛称」を募集することにした。「第2回伏見 100 人会議」を皮切りに公募し、30件ほどの応募があり、1月代表者会議で「伏見丸」が選ばれた。皆で力を合わせて大海に乗り出す「伏

見丸」のイメージが本会に重なり、「伏見丸」を積極的に活用することにより若者や子ども達が参加してくれるようにしたい。

以上、2回の「伏見100人会議」により、伏見地区住民の皆さんや自治活動を担っている皆さんがどのようなことを課題と考えているのか、熱心な議論を経て把握することができた。多くの課題があるが、まず決めていただいた優先順位の高い課題から活動計画に入れて取組を始めたい。

【4】まちづくりの目標

（1）長期計画（10年計画）

これまで長年にわたって地域自治活動の中心になって取り組んできた団体は、それぞれの活動分野で重要な活動目標を持っている。これらの活動目標は、今後も地域自治活動の目標でもある。これらを「伏見地区自治協議会」の長期計画（10年計画）に位置づけ、地域の状況や取り巻く環境の変化の点から検証して、毎年更新するものとする。そして、長期計画を実現するため、中期計画・短期計画を連動させて自治計画を立案し、着実に実行したい。

《伏見丸》長期自治計画：2026年度～2035年度活動計画

	長期目標	重点目標
住みやすいまちづくり	Ⅰ 誰もが安心して暮らせる安全なまちづくり	●交通ルールを守り、事故の無い地域づくりをめざす。
		●道路環境（道路標識、横断歩道）の保全・整備を推進する。
		●社会インフラの整備・更新を計画的に進める。
		●持続可能な社会づくりに向けた意識改革を進める。
	Ⅱ 災害に強いまちづくり	●「自助」に向けた防犯・防災対策を推進する。
		●「近助」「共助」に向けた団体・個人との協力関係を構築する。
		●地区災害対策本部と災害時自治会の設置を推進し、運営訓練を行う。
		●災害時を想定した防災対策・防災訓練を実施する。
		●防犯・防災分野で活動できるリーダー・サポーターを育成する。
	Ⅲ 互いに支え合い助け合えるまちづくり	●高齢者の健康を守り、孤立を防ぐ活動を推進する。
		●災害時避難行動要支援者をサポートできる地域づくりを進める。
		●地域の住民を支えるサポーターを支える専門家との連携を進める。
		●様々な異集団が出会い、協力・共働する活動を進める。
	Ⅳ 若者が夢を持ち成長できるまちづくり	●虐待やいじめから子どもを守り、成長を温かく見守る活動を推進する。
		●必要とする子どもに心理的なサポートを届ける活動をする。
		●子どもの興味・関心に応じて、夢に繋がる体験ができる機会を届ける。
		●地域で地域の子どもの育ち、地域で次の世代を育てる取組を進める。

ただし、Ⅰの「持続可能な社会づくりに向けた意識改革」とは、SDGs（持続可能な開発目標）のことであり、地球規模の課題解決を目指す17目標があり、2015年9月に国連で採択され、2030年までの達成を目指している。伏見地区の中でも、SDGsを踏まえた持続可能なまちづくりを推進する視点を持ち、住民の中からそのような取組が広がることを支援したい。

(2) 中期計画（3～5年計画）

長期計画に関係する課題であるが、短期計画では実現できない課題については「伏見地区自治協議会」の中期計画（3～5年計画）に位置づけ、地域の状況や取り巻く環境の変化の点から検証して、毎年更新するものとする。そして、中期計画を実現するため、短期計画を連動させて自治計画を立案し、着実に実行したい。

本年度は自治協議会の活動初年度であり、中期計画を立案できていない。そのため、本年度は中期計画を作成することを目標とする。

【5】『2026年度伏見地区自治計画』

(1) 短期計画（1～2年計画）

毎年、11月に地域住民の意見・要望を直接聴く「住民会議」（仮称）を開催し、本会として課題解決に取り組む事項を次年度の自治計画にまとめ、短期計画を更新する。一方で、長期計画を実現するために実施状況を分析し、中期計画と連動して短期計画を再立案し、短期計画を更新する。つまり、二つの視座から短期計画の更新を図り、目の前の住民の意見・要望を中心に置きながら、長期的な地域のまちづくりを進めたい。ただし、2026年度は自治計画の実施初年度であるため、「短期計画」は前年の本会準備会の「伏見100年会議」において、各部会で優先課題に決められた課題を中心に短期計画を以下のように立案した。

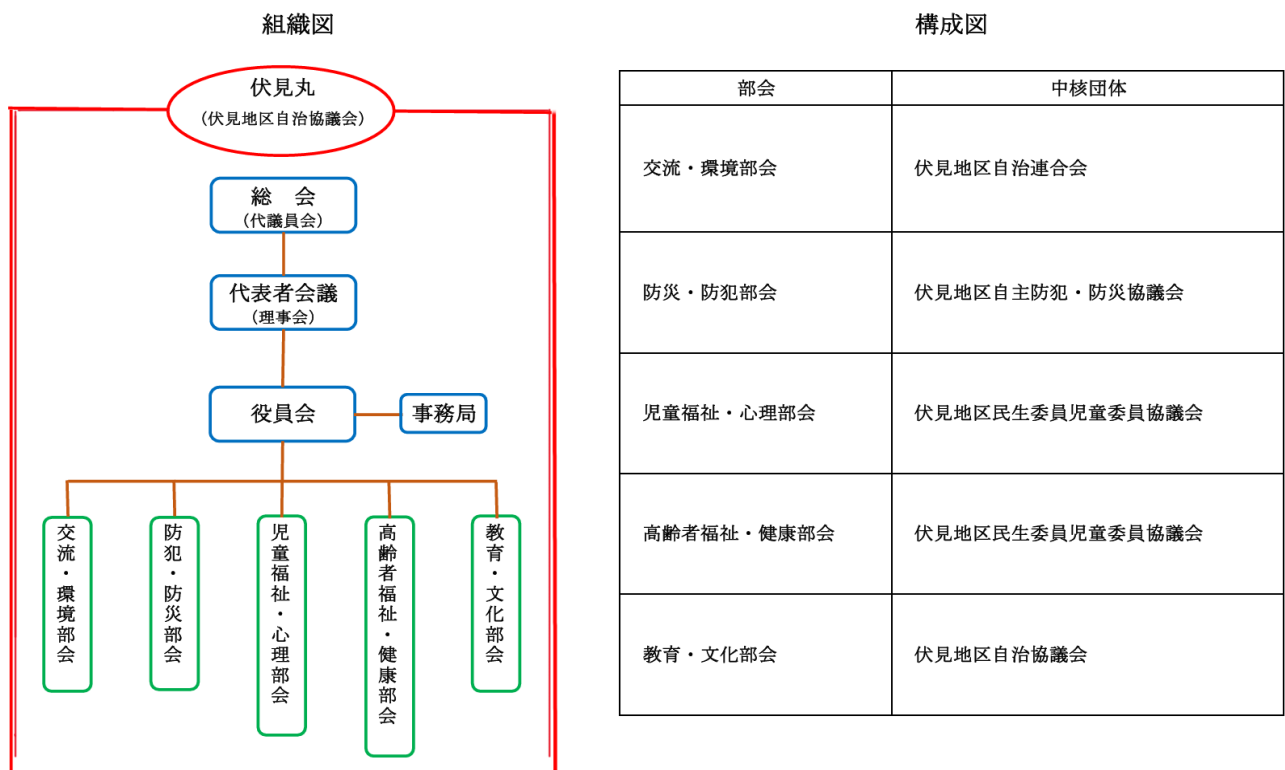
《伏見丸》短期自治計画：2026年度活動計画

《伏見丸》部会	短期優先課題	活動方針・対策
Ⅰ 交流・環境部会	○ゴミの分別ができておらず、業者が回収できず、カラス被害にあつてゴミが散乱し、周辺の環境・美化が悪化している。	○自治会役員や有志が分別処理し、該当の日に出し直しをしている。また、張り紙をしたり回覧を通じて改善を求めているが、なかなか改善しない。何とか改善させたい。
	○交流やにぎわいが進まないのは、住民に祭りなどの情報が届いていないから。	○住民に情報を届けるために、楽しく簡単に情報を視られるようなアプリを開発したり、ホームページを作成する。 ○空き家の有効活用をして、住民が自由に入出りでき、情報交換や悩みを言い合える居場所を作りたい。 ○ボランティアチケットを貯めると何かができるというような仕組みを地域で作って、交流を進めてはどうか。
Ⅱ 防災・防犯部会	○伏見地区の奈良市指定3避難所の収容人数は1,000人程度。スフィア基準が適用されると更に500人程に減少する。避難所を増やせないか。	○神社・仏閣・教会・商工会議所などと連携し、避難者の受け入れを依頼する必要がある。また、災害時には伏見地区災害対策本部と連携し、避難者の情報共有を求める。
	○様々な情報が住民に届いていない。特に、災害時には安否情報、避難情報、支援物資・ボランティア情報などが全住民に届く必要がある。 ○次世代の防犯・防災リーダーの育成が求められている。	○全住民に自宅避難・車中避難などの選択肢の準備を求める。 ○伏見地区災害対策本部に様々な情報を集め、整理し、すべての住民に発信する仕組みを早急に整える。 ○災害時に停電が発生した場合、各自治会や各集合住宅ではどのように様々な情報を構成員に伝えるかを検討してもらい必要がある。 ○発達に応じて学校教育の中で防犯・防災学習の実施を求め、地域として協力する。 ○学生に協力を求め、地域活動の中でリーダーとして育てる。
Ⅲ 児童福祉・心理部会	○苦情を言う人がいたり禁止されているため、ボール遊びなどで子どもが自由に外で遊べる所がない。	○公園にネットを張ったり、敷地外にボールが出ないように工夫して、小さい子の柔らかいボール遊びはOKにする。 ○「温かい目で子どもを見守ろう」とチラシ・ポスター・ホームページで呼びかける。
Ⅳ 高齢者福祉・健康	○高齢化のため一人暮らしの高齢者が急増しており、見守りが難しい状況になっている。	○見守り対象者の把握（要支援者・要介護者、身体状況等）を継続して実施し、状況に応じて家族・近所・自治会等が連携して見守りを行う態勢を整える。
	○高齢化、認知症の進行や隣近所との関係性の希薄化により、ゴミの分別ができない、ゴミステーションまで行けない、曜日を間違える高齢者がいる。 ○高齢者の居場所自体が非常に少なく、身体機能の低下のために行けなかったり、居場所情報を知らず、家庭で孤立している高齢者が多くいる。	○このような高齢者一人一人に対してどのような支援ができるかをヘルパー人材・家族・隣近所などの関係者で考え、取り組まなければならない。 ○このような高齢者をどのように見守るのかを関係者で考え、担い手を募って居場所と繋げる取組が必要である。 ○特に男性の居場所は非所に少なく、居場所づくりが必要である。
Ⅴ 教育・文化部会	○地域活動の成り手不足・担い手不足のため、次第に継続が困難になっている。	○学校との連携を強化し、地域の住民を助ける地域の子ども達を育てる取組を継続的に行う。 ○中学校部活動が地域クラブに移行することに先立って、地域で中学生を様々な活動に受け入れ、次世代のリーダーとして育てる取組を定着させる。

(2) 組織計画

「伏見丸」は2026年度より活動する団体であり、各段階の「自治計画」に盛り込んだ活動は、誰が実行するのかについては、基本的には次のように考えている。

「伏見丸」は、地域の課題を把握した上で、どのように解決するのかをPlanningする組織であり、より多くの方と連携をして解決を目指し、他団体や個人とMatchingするPlatformを提供する組織でもある。取組を実行するのは地元住民であり、既存団体や協力団体、志を持つ個人が実行することになる。



その中心になるのが、「組織図」で示した「伏見丸」であり、最高議決機関である「総会」、審議機関である「代表者会議」、執行機関である「役員会」、そして、その基に活動分野別の「5部会」があり、これが実行機関に相当する。この部会には「構成図」のように、それぞれの分野で大きな役割を担っている中核団体がまとめ役となり、他の代表者会議に所属する団体や協力団体は関係の強い部会に所属し、中核団体と協力・協働して課題解決の取組を進めていただきたい。

課題によっては部会を超えた取組が必要な場合も想定され、課題毎のPlatformを造ったり、他部会と合同で取り組むなど、臨機応変の活動も想定している。

また、代議員や理事の中には、所属団体の分野を超えて、様々な分野に興味・関心・経験を持つ方もおられる。その志を活かすためにも、「他の分野についても協力したい」との意思があれば、個人として所属・活動していただきたいことも想定している。

2026年度は「伏見丸」活動初年度であり、スタートは上記の「組織図」「構成図」から実践を始めるが、地元住民を対象とするため、協力団体制度を設けて、マンションなどの連合会未加入自治会や民間の施設・団体等にも参加を働きかけ、協力団体に勧誘をしたい。更に、助け合う地域づくりに賛同していただける個人についても、個人公募制度を設け、代議員・理事にも参加していただけるようにしたい。そして、一般住民の方

については、様々な取組に参加していただけるように広報計画を立て、幅広く参加を呼びかけたい。

（３）活動計画

「伏見丸」の役割は、主に二つある。第一に、伏見地区内の全住民を対象とする取組をすることであり、当然、伏見地区全域のまちづくりを推進することが役割でもある。従って、全住民を対象とするイベントは、「伏見丸」が主催することもある。第二に、伏見地区内の個人や団体が様々な取組を共同・協働して取り組めるようにサポートすることである。テーマごとに関係者・関係団体を集め、連携できるプラットフォームを運営することが役割になる。 《イベントの分類》 主催イベント…例：伏見まつり

共催イベント…例：防災マルシェ、総合防災訓練

支援イベント…例：SGDs の取組に対する支援

本年度は活動の初年度であり、伏見地区内で活動する様々な団体や個人と出会い、特徴を把握して課題に応じて繋がりを創出することに尽力したい。どのような繋がりができるのかを考え、次のような事例を示した。それぞれの団体で分類や形式にこだわることなく、最も良い方法で実現できるように協力したい。

- A イベント型…共通の目標を持つ個人・団体が、主催者が決めた日時に特定の場所に集まる。

事例案…自治会主催：公園での花見大会、線香花火大会

- B ステージ型…継続する目標を持つ個人・団体が、あらかじめ役割を持ち、事前に共通理解を図り、事前準備や練習をして実行する。

事例案…自主防主催：避難所開設訓練

自治会主催：要支援者と支援者が集う支援集会

- C 見守り型…一定の対象者に対して、一定の条件で見守りをして安全を確保する。

事例案…民生主催：公民館で月一回、高齢者が捨てられない良品を持ち寄り、必要な方にあげるバザー「持ってって会」を開催。

- D 居場所型…特定の対象者が決められた日時と場所に来て、一定の行動をする。

事例案…社協主催：空き家を借りて図書を置き、私設図書館と高齢者サロン(Café)を行う。

- E その他……一定の時間にWeb上で集まり、一定の行動を行う。その他、これまでにない繋がり方を模索する。

《 おわりに 》

「準備会」から設立総会までの時間があまりに少なく、準備できなかった部分も多くあるが、その部分は活動をしながら整えていくことになる。これまで協力いただいた皆さんに心より感謝申し上げますと共に、「伏見丸」が荒波にも耐えることができるまで、引き続き叱咤激励をお願いしたい。

この地域自治協議会づくりの活動を通して、後に続く人生の後輩達が、生き抜いていく上で必要となる自分にとって本当のもの、確かなものを見つけてくれることを願う。そして、その後に続く後輩たちにも……